

京都府漁海況情報

京都府農林水産技術センター海洋センター 研究部

<https://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>

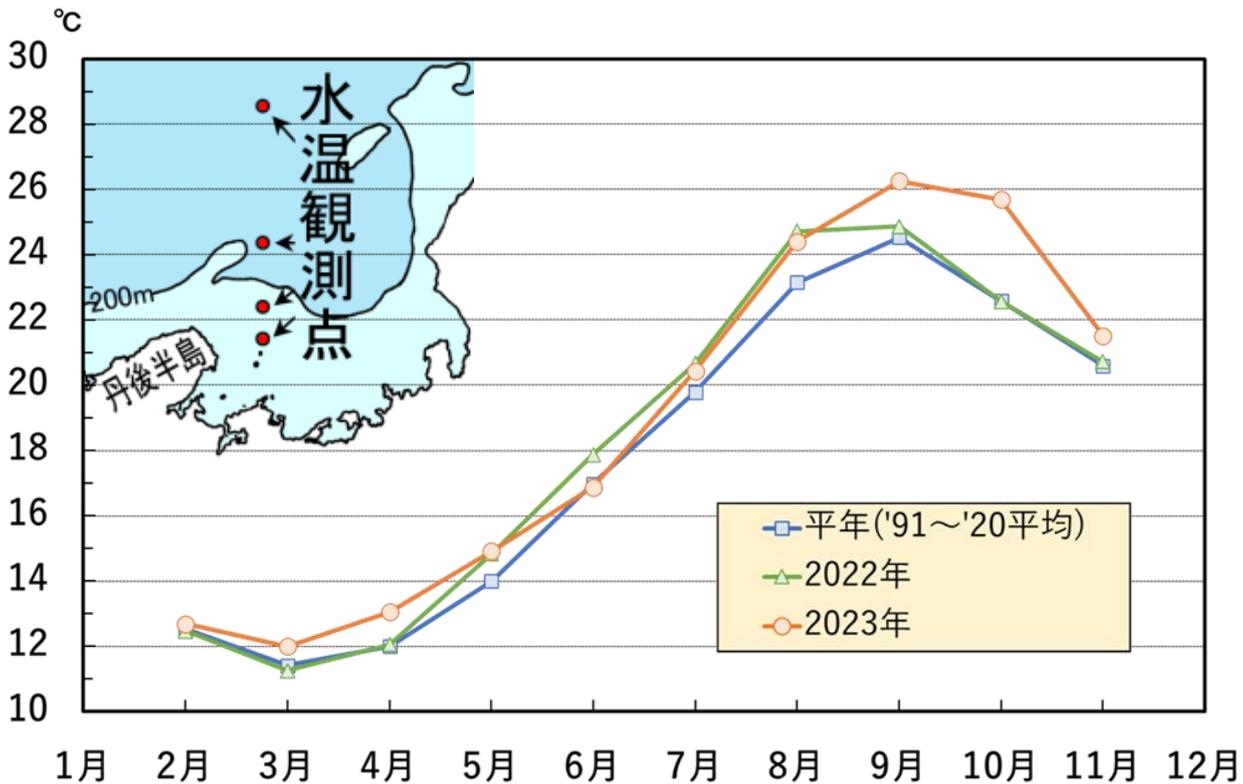
電話:0772-25-3078 FAX:0772-25-1532



海の状態 ～2023年1月から12月まで～

表層水温は、3月は平年よりやや高め、4月及び5月はかなり高め、6月のみ平年並み、7月から9月はやや高め、10月ははなはだ高め、11月はかなり高めで推移した。

京都府沖の表層水温（0～50 m 深平均）



単位：℃	水温	平年差	評定
1月	観測なし		
2月	12.7	データ過少につき評定なし	
3月	11.9	+0.5	やや高め
4月	13.0	+1.0	かなり高め
5月	14.9	+0.9	かなり高め
6月	16.9	-0.1	平年並み
7月	20.4	+0.6	やや高め
8月	24.4	+1.3	やや高め
9月	26.2	+1.7	やや高め
10月	25.7	+3.1	はなはだ高め
11月	21.5	+0.9	かなり高め
12月	観測なし		

≪漁模様 2023年1月から12月まで≫

【定置網漁業】

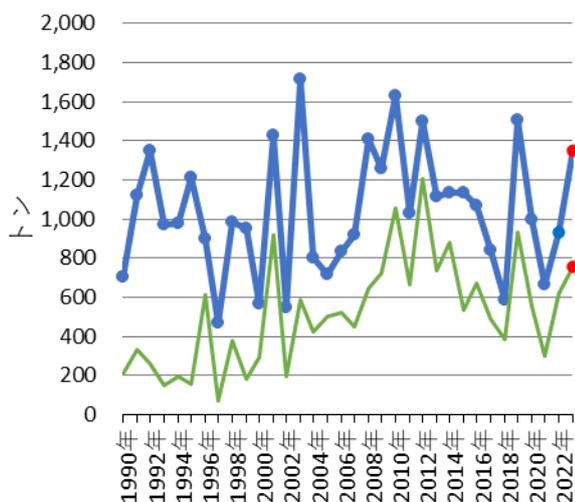
ブリが平年の1.3倍（前年の1.4倍）、シイラが平年の2.5倍（前年の2.9倍）と好調であったが、カタクチイワシは平年の4割弱（前年の4割強）と低調であった。全体では、平年並み（前年の8割）であった。

年間漁獲量（上位10魚種）（トン） 京都府漁協集計				
魚種	2023年	2022年(前年比)	平年(平年比)	備考
マイワシ	1846.7	3739.2 (49%)	909.6 (203%)	<サワラ銘柄別> さわら大(3kg以上): 57.3トン さわら(2-3kg): 66.0トン さわら中小(1.5-2kg): 54.9トン さわら小(1-1.5kg): 85.2トン さごし(0.4-1kg): 677.9トン やなぎ(0.4kg未満): 308.5トン <ブリ銘柄別> ぶり: 526.7トン まるご: 6.6トン はまち: 54.4トン つばす: 758.6トン <イカ類> アオリイカ(秋いか): 99.8トン ケンサキイカ(白いか): 93.7トン ヤリイカ(冬いか): 23.4トン スルメイカ: 3.4トン ソデイカ(たるいか): 3.8トン など
ブリ	1346.3	934.6 (144%)	1013.1 (133%)	
サワラ	1249.7	1052.7 (119%)	1516.9 (82%)	
カタクチイワシ(たれ)	840.1	1862.9 (45%)	2231.2 (38%)	
シイラ	561.0	195.0 (288%)	224.2 (250%)	
サバ類	533.7	610.1 (87%)	302.8 (176%)	
マアジ	455.0	530.4 (86%)	738.5 (62%)	
イカ類	234.4	214.4 (109%)	289.7 (81%)	
スズキ	141.6	136.5 (104%)	156.6 (90%)	
トビウオ	125.1	165.0 (76%)	148.5 (84%)	
その他	1012.1	992.0 (102%)	1135.8 (89%)	
合計	8345.5	10432.7 (80%)	8667.0 (96%)	

※平年：2013-2022年

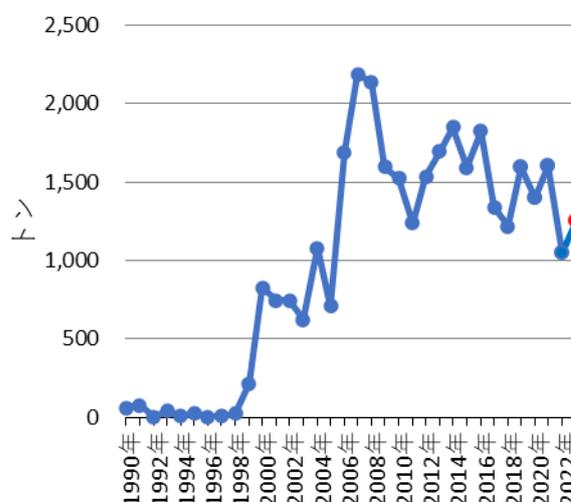
<主要魚種の漁獲量経年変化>

ブリ（緑線はつばす銘柄）



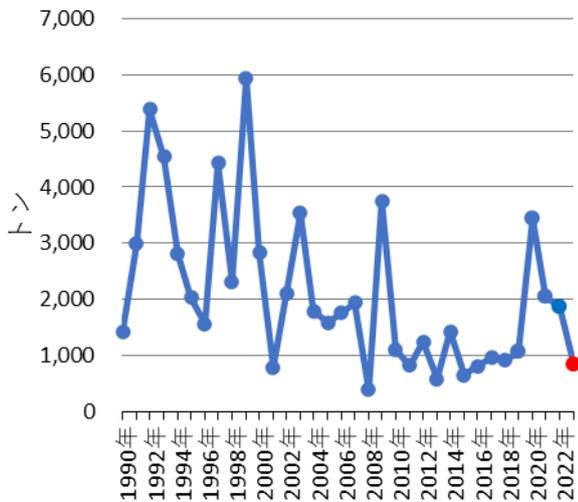
前年・平年を上回り、好調でした。

サワラ



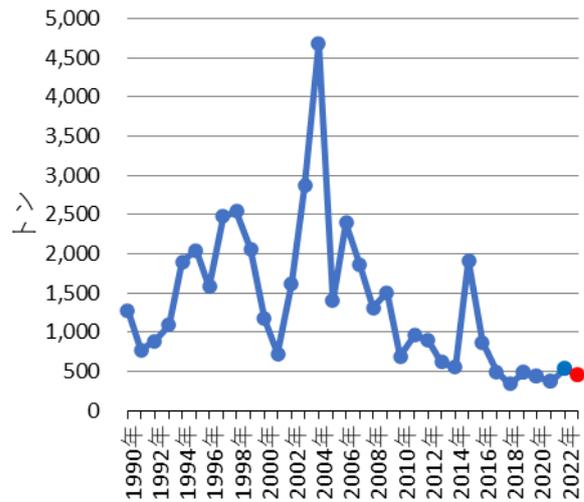
漁獲量は2000年代から急増し、現在も好調を維持しています。今年は前年・平年並みの漁獲量でした。

カタクチイワシ



前年・平年を下回りました。(ただし、混じって水揚げされたカタクチイワシ以外の小魚も含めています)

マアジ



漁獲量は2004年以降減少しており、前年・平年を下回りました。

【底曳網漁業】

全体の水揚量は、平年の7割強（前年の9割弱）であった。

年間漁獲量（上位5魚種）（トン） 京都府漁協集計				
魚種	2023年	2022年(前年比)	平年(平年比)	備考
ニギス(沖ぎす)	127.9	131.0 (98%)	122.9 (104%)	<カレイ類> アカガレイ(まがれい): 54.5 トン ソウハチ(えてがれい): 12.7 トン ヒレグロ(くろがれい): 4.1 トン ムシガレイ(みずがれい): 1.9 トン ヤナギムシガレイ(さきがれい): 1.4 トン <ズワイガニ> 雄: 32.5 トン、雌: 22.3 トン <タイ類> キダイ(連子鯛): 6.2 トン マダイ: 1.1 トン など
カレイ類	75.3	78.6 (96%)	120.9 (62%)	
ズワイガニ	54.8	66.3 (83%)	63.5 (86%)	
エビ類	8.6	7.8 (110%)	7.5 (115%)	
タイ類	8.5	12.9 (66%)	17.5 (48%)	
その他	35.6	33.2 (107%)	68.5 (52%)	
合計	310.7	348.3 (89%)	427.7 (73%)	

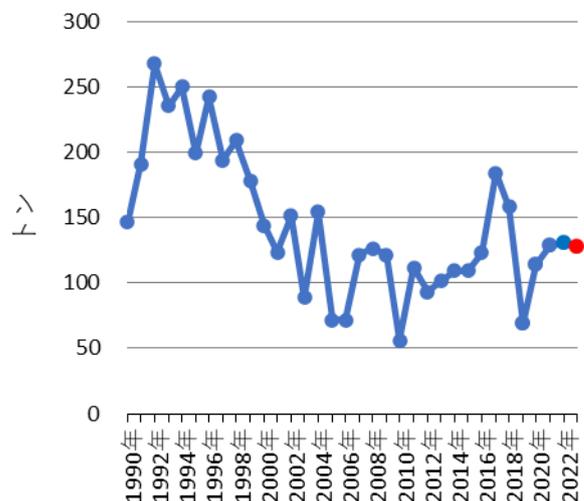
※平年：2013－2022年

<主要魚種の漁獲量経年変化>

アカガレイ（底曳網）



ニギス（底曳網）



【釣り・はえなわ漁業】

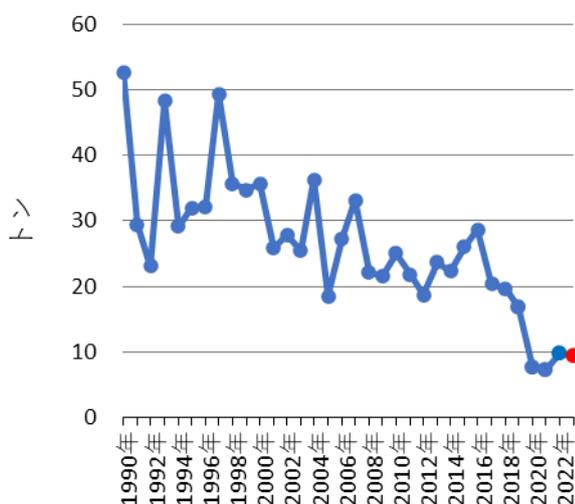
全体の水揚量は、平年の6割強（前年並み）であった。

年間漁獲量（上位5魚種）（トン） 京都府漁協集計					
魚種	2023年	2022年(前年比)	平年(平年比)		備考
タイ類	27.9	25.6 (109%)	31.8	(88%)	<タイ類> キダイ(連子鯛): 18.1トン マダイ: 9.4トン など
イカ類	22.0	19.8 (111%)	47.4	(46%)	
ブリ	17.2	9.3 (185%)	51.7	(33%)	<イカ類> スルメイカ: 8.3トン ソデイカ(たるいか): 6.2トン ケンサキイカ(白いか): 2.0トン アオリイカ(秋いか): 2.7トン など
メバル類	10.7	15.0 (71%)	13.1	(82%)	
アカアマダイ(ぐじ)	8.7	10.1 (86%)	17.3	(50%)	
その他	38.3	19.4 (197%)	18.8	(203%)	
合計	124.6	119.2 (105%)	203.9	(61%)	

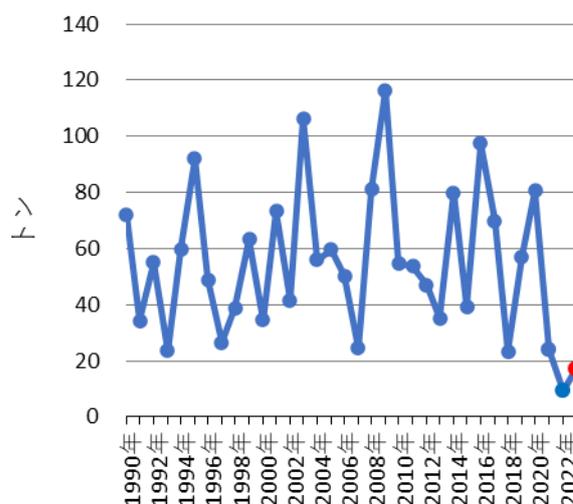
※平年：2013－2022年

<主要魚種の漁獲量経年変化>

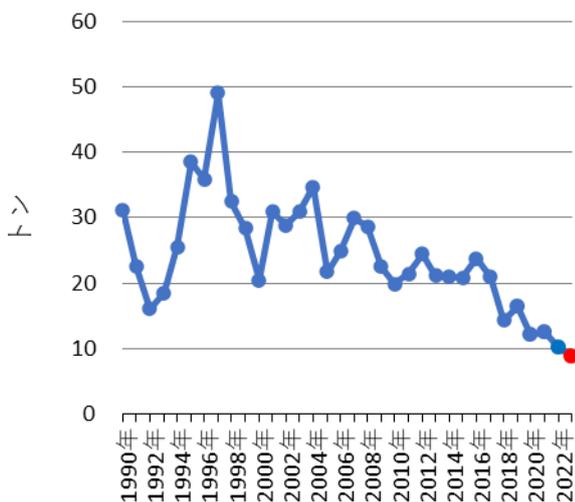
マダイ（釣り・延縄）



ブリ（釣り・延縄）



アカアマダイ（釣り・延縄）



◆2023 年に皆様から提供いただいた珍しい魚

11月17日 成生水産より（写真提供）1.8～2kg の個体



【シマアジ】（スズキ目アジ科シマアジ属）*Pseudocaranx dentex*

孵化後1年で体長15cm前後、体重170g、2年で24cm前後800g、3～4年で33～37cm前後2～3kgに成長し、成熟する。伊豆一小笠原諸島、青森県～屋久島の太平洋沿岸（茨城県以北は未成魚のみで散発的）、新潟県～九州北岸の日本海沿岸（未成魚のみで散発的）、九州西岸、沖縄島以南の琉球列島、台湾、東太平洋を除く全世界の温帯域（局所的）に分布。

中坊徹次 編・監修『小学館の図鑑Z（セット）日本魚類館』（小学館、2018年）260頁より引用

若狭湾において成魚サイズが獲れることは珍しい。



見慣れない海の生き物を発見された場合には、ぜひ当所までご一報ください。

研究最前線 ～ズワイガニの脱皮～

府内で水揚げされる甲羅が硬い雄のズワイガニは、ハサミが大きく市場価格の高い「タテガニ」とハサミが小さく価格の安い「モモガニ」に銘柄分けされています。モモガニは脱皮盛期の9-10月に脱皮をしなかった未成熟な個体で、いずれ成熟したタテガニになりますが、その過程の詳しいことは分かっていません。そこで、当センターでは水産研究機構・教育機構と共同でモモガニを水槽飼育し、脱皮する時期や体色、形状の変化などを調べています。これまでの測定結果から、脱皮が近づくと体色が茶褐色から段々と青緑色に変化することが分かりました。

府内の底びき網漁業では、今漁期から甲幅100mm未満のモモガニは漁獲禁止とする自主的な取組みを新たに始めました。今後もズワイガニの生態や資源状況を調べていくとともに、新たな取組みの効果についても検討していきたいと思えます。



脱皮途中のズワイガニ



脱皮直後のズワイガニ

上：脱皮殻、下：脱皮直後のカニ（水ガニ）